

Title	建設業における開発事業の評価 - 戦略サポートシステムの基礎として -
Sub Title	
Author	小川利哉(Ogawa, Toshiya) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第743号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0743

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	小川 利哉 (清水建設株式会社)	主査	伏見多美雄
		副査	柳原 一夫 柴田 典男
所属	伏見多美雄 研究室		

建設業における開発事業の評価

－ 戦略サポートシステムの基礎として －

今、大手建設会社は開発事業に着目している。これは、自ら開発事業を行うことによって、従来の請負事業と比べて、より大きな収益性を確保できるという期待からである。低採算に甘んじることが多い建設業にとって、開発事業をいかに充実していくかが、今後の企業経営を大きく左右するといわれている。

開発事業は、自らのリスクで、先行的に投資を行い、ある期間をおいてから、リターンを得るという事業であるから、投資採算という戦略志向が重要である。

これに対して、従来の請負事業は、先に工事代金の一部を得て、後から下請けの業者に支払っていく事業であるため、キャッシュフロー的には、ほとんどノーリスクではあるが、そのかわり小さな売上利益率に甘んじている。

本研究では、このような開発事業と請負事業との本質的な違いを理解するために、それぞれの事業の特徴を比較しやすいような簡単なシミュレーションモデルを開発し、いろいろな条件のもとでのテストランの結果を、キャッシュフローや財務会計上の諸指標を手がかりにして分析する。

また、開発事業の評価に、請負事業で使われている年度単位の業績評価システムをそのまま適用することには問題があると言われている。そこで、その問題の本質を明らかにするとともに、その問題を解決するためにはどのような評価尺度に改めるべきか、といったことを検討する。さらに、これらのモデル・アプローチを応用して、請負事業と開発事業との最適事業ミックスをめざす戦略計画の基礎になるようなシミュレーションモデルを開発する。そして、このモデルによって、いろいろな事業ミックスの変化が、キャッシュフロー利益と財務会計上の利益、その他財務諸指標にどのような影響を及ぼすかを検討する。そして、多目標計画の手法を応用して最適事業ミックスを検討する方法を、モデル例を用いて提案する。